

パラリンピックへの OT の貢献

特集にあたって

2020 年、東京オリンピック・パラリンピックは国民の関心事である。障害者の自立支援においてはさまざまな可能性があり、障害者の自己主張や表現の場が、社会に認められた場にあることは重要である。国内競技では、国民体育大会と併せて全国障害者スポーツ大会が毎年開催されている。障害者とスポーツは身近な存在ではあるが、競技人口や練習場所の確保、指導者や支援者の確保や人材育成等の課題もある。

OT は、活動性の向上と社会参加の促進にかかわることができ、障害者の可能性を見据えながら、障害と個人の特性に合った活動を選択する。さらに、スポーツ種目では、個人と集団の競技があり、失われた機能を補う義肢・補装具の活用、競技種目によって使用される物や道具の選択や開発等、OT の専門性を活かしたかわりが可能である。当然、スポーツに限らず他の芸術や創作活動等多くの場があることも理解しておく必要がある。

本特集は、「パラリンピックへの OT の貢献」で障害者とスポーツと作業療法がつながり、継続的な支援が実現できることを期待している。一人でも多くの障害者が自分の存在価値を見つけ、輝くことができる場を確保し、支援ができる OT が増えることを望んでいる。
(三澤一登)

企画担当

三澤一登 (愛媛十全医療学院, 作業療法士)

江藤文夫 (国立障害者リハビリテーションセンター, 顧問・医師)

中村春基 (日本作業療法士協会, 会長・作業療法士)